

# 東プレ九州

東プレ九州（福岡県久留米市、藤原浩紀社長）は、冬季暖房設備にヒートポンプを利用するなどの取り組みで工場の脱炭素化を進める。同社は東プレの子会社で、ヒーターなどの自動車用組み立て部品を手がける。2023年、本社工場の組み立て工程に三菱重工サーマルシステムズ（東京都千代田区）などが開発したヒートポンプ式熱風発生装置「熱Pump（ねっぷトーン）」を導入した。

以前はボイラを使って熱風を発生させ、工場内の設備の老朽化や工場全体の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）のダクトを通じて暖気を送風していたが、ボイラ設備の老朽化や工場全体の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）

## モノづくり現場

### 生産革新・脱炭素社会への挑戦

3

## 暖房設備にヒートポンプ

# ボイラ代替 CO<sub>2</sub> 年51ト減

排出量削減のため導入にト削減や、年間約51トの踏み切った。年間約14 CO<sub>2</sub>排出量削減に貢献0万円のランニングコストしているという。導入に



ねっぷトーンの室外機。幅を取らないため設置しやすい

かかった費用は約300設定もできるため外気温は20年度比で30%の削減を目標に掲げる。藤原社長は「当社は新規開拓も

を追加整備する。施工は地元の九電工が担う。組み立て工程の広さは約5000平方メートル。80人ほどの勤務する。エアコンなどの空調設備による暖房も試したものの、霜取り運転（デフロスト運転）による冷風や風量の不足などがネックだった。ねっぷトーンは霜取り運転による冷気を発生させずに暖気を再加熱して送り出せるのが特徴だ。ボイラと違い、温度

東プレ九州の藤原浩紀社長は「ダクトなど既存設備に追加するだけでよながらエネルギーコストをどう削減するか悩ましている」と語る。大陽光発電などの別工場からも「具体的に知りたい」との声も（九州中央・片山亮輔）（水・金曜日に掲載）

【事業所概要】▽所在地：福岡県久留米市田主丸町秋成150、0943・74・7150▽主要生産品目：自動車のプレス部品▽年間CO<sub>2</sub>排出量：2699ト（本社工場、23年度）

上がっているという。

東プレ九州は30年までに13年度比46%のエネルギー削減、CO<sub>2</sub>排出量